

令和8年度 学校自己評価書(様式)

鈴鹿市立白子小学校		NO.	
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果と課題	今後の改善点
学力・授業改善	<p>1 授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教員による授業公開100%(指導主事を招聘年4回) ・「めあて」「まとめ」「振り返り」を位置付けた授業スタイルの確立 ・児童の興味・関心・意欲を大切に、考えを深め、表現し、適切に評価する授業の実施 ・学びに向かえる掲示物の工夫、教室環境の整備、学習規律の確立:学年単位、または学校単位 ・学力調査(学期末テスト)・みえスタディ・チェック:全国平均・県平均以上 ・児童アンケート「授業はわかりやすいですか」:90%以上 <p>2 基礎学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導(習熟度・TT)によるきめ細かな指導。 ・独自学級(6年)・算数科少人数指導実施学年(5年生)の算数単元テスト:全国平均以上 ・「よむYOMUワークシート」「読む・書くワークシート」を活用した読解力、論理的思考力の育成。朝学習を利用し、週1回実施。 <p>3 家庭学習の習慣化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の手引きを作成し、学年×10+10分程度を目標にした家庭学習時間の確保。 ・児童アンケート「宿題をきちんとしていますか」:90%以上 ・保護者アンケート「お子さんは家庭学習の習慣がついていますか」:80%以上 <p>4 ICT機器を活用した授業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員のICT全体研修会:年1回以上実施 ・ICTサポーターとの連携授業:每学期1回以上 ・ク롬ブック活用アンケート「授業中にク롬ブックをどの程度使っていますか。」:週3回以上、80%以上(4年生以上) ・長期休暇の持ち帰り:100% ・日常的な持ち帰り:4年生以上(毎日)、3年生以下週1回以上 		
長期欠席対策	<p>全ての児童の居場所がある学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートによる児童の実態把握と早期対応 ・SC、SSW、SLS、ほっとルームの活用及び関係機関との連携 ・不登校対策委員会の実施:毎週定期的実施 ・生活安全委員会による挨拶運動:週1回以上 ・集会活動:学期1回以上(生指部と連携) ・児童アンケート「学校に来るのは楽しいですか」:90%以上 ・不登校(傾向)児童の児童生徒理解・支援シート作成:100% ・長期欠席(30日以上)児童数:R7年度以下 		
非認知能力育成	<p>人権尊重を基盤に据えた授業実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やりぬく力、自制心、自己肯定感、社会性を身に付ける教育活動の推進 ・児童の興味・関心・意欲を大切に、考えを深め、表現し、適切に評価する授業の実施 ・児童アンケート「自分には良いところがあると思いますか」:90%以上 ・児童アンケート「先生は、あなたの話をよく聞いてくれますか」:90%以上 ・1年において、未就学児施設を対象とした授業公開・事後検討会を実施 		
地域連携	<p>1 地域に「開かれた学校」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域人材・地域教材を活用した教育活動の推進 ・地域ボランティアの活用 ・地域・家庭と連携した防災、防犯、交通安全の取組の実施 ・スポーツ出前授業等外部人材を活用した出前授業を各学年1回以上 ・ボランティアによる学習支援や見守り支援等:年200回以上 ・津波避難訓練、引き渡し訓練実施:年1回 <p>2 教育活動の公開・情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事と授業の公開:学期1回実施 ・学校通信、学級通信による情報発信:学年、学校だより発行:年12号以上作成 ・ホームページ更新:毎日更新 ・保護者アンケート「学校通信やHP等で学校の情報を伝えていますか」:90%以上 		
学校における働き方改革	<p>1 全教職員による学校運営への参画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人事評価制度を活用した管理職との面談:3回以上 ・二部会、企画委員会の活性化:月1回以上実施 ・教職員間の対話を重視した風通しのよい職場づくり ・校務DXを進め、教育の質を向上させ、効率化する。 <p>2 時間外労働の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員間の交換授業、教科担任制を推進 ・職員会議提案資料の事前確認と提案の簡潔化 ・ク롬ブック校内掲示板とホワイトボード連絡黒板の活用と共通取組の遵守 ・定時退校日の設定と出勤システムによる勤務時間の確認 		
特別支援教育	<p>1 個に応じた支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援委員会の実施:毎週定期的実施 ・特別支援教育コーディネーターを中心とした組織的な対応。支援会議、ケース会議の実施:必要に応じて行う。 ・個別の支援計画・指導計画の充実:前期後期2回更新 ・国際学級設置による取り出し:週10時間以上 ・JSLバンドスケールを用い、児童の日本語能力を把握して共有。 ・学年だより等の翻訳文書を発行 ・通級指導教室の効果的な活用 <p>2 特別支援教育の視点にたった教育活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集中できる落ち着いた学習環境づくり ・見通しを持たせる授業の実施 ・特別支援教育に関わる研修会:年1回以上 		
生徒指導	<p>1 落ち着いた生活態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点目標(挨拶・返事、廊下・階段歩行、チャイムを守る、トイレの使い方、校内の整頓、無言清掃)の徹底 ・学びに向かえる学習環境、学習規律の確立 ・児童アンケート「進んであいさつをしていますか」:90%以上 ・児童アンケート「学校の約束や決まりを守ることができましたか」:90%以上 ・児童アンケート「まわりの人にやさしくできましたか」:90%以上 <p>2 対話を重視し、児童の良さや可能性を認め、共感しながら接する組織的な指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教職員が、常に自身の取組を振り返り、児童により好影響を与える関わりとなるよう改善する。児童の状況や教職員の関わりについての振り返りを実施:毎月の生活部会で確認 <p>3 問題行動の未然防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケート:年3回実施 ・保護者アンケート「白子小学校は、お子さんのことを気軽に相談できる学校ですか」:85%以上 ・学校内での児童の情報共有:週1回以上実施 ・電話、家庭訪問、懇談会、PTAとの話し合い等による保護者との連携 		